

## アームダンパーの効果(6)

—ThorensTD124(3)—

### 1. 始めに

前報(1)と(4)の結果を受け、クラシック以外のジャンルではどうかと試してみることにしました。

### 2. アームダンパーの試聴計画

システムは ThoresTD124 の RMG-212 を対象として、前報(1)の手芸用フェルト製アームダンパーを使用します。

音源は下記の Jazz 盤とし、スピーカーは JBL43050A を使用します。JBL43050A のマルチアンプ駆動の構成は、ダブルウーファーが Heath Kit の W6M (KT88pp) アンプ×2、ミッドバスからツイーターまでが特注の RCA 45pp アンプ、スーパーツイーターが PILOTONE の 6V6pp アンプ×2 です。なお、各チャンネルのユニットにはムジカライザーML-6を介在させています。

音源は下記を使用します。これらの盤は事前に CD クリーナーの処理を行います。

**SOMETHINGCOOL SCLP-1055(ダイレクトカッティング 45 回転盤)**

ミスティ

**TSUYOSHI YAMAMOTO TRIO**

**RIVERSIDE OJC-234**

**Bag Meets Wes!**

**PRESTAGE OJC-291**

**SAXOPHONE COLOSSUS**

**ワーナーパイオニア P-5177-8A**

**MJQ Last Concert**

### 3. アームダンパーの試聴結果

手芸用フェルトのダンパーを RMG-212 に付け外ししながら聴いていきます。ジャズの生音には馴染みが薄いのですが、ベースの弾み具合、ドラムの明瞭さ、ピアノの左手の打鍵などに注目して聴いていきます。駆動する真空管アンプの寝起きが悪いので十分にヒートアップしておきます。

ミスティは、ダンパーなしでは、ベースの量感がありますが、締まりがなく、ピアノの左手の打鍵も明瞭さを欠くところもありますが、ダンパーありでは、ベースとピアノの左手の音がくっきりとして、ベースの音階がとりやすくなります。

**Bag Meets Wes!** は、ダンパーなしでも、かなりのところベースは弾み、ピアノやヴィブラフォンのアタック感もギターの切れもさほど不満はありませんが、ダンパーありでは、その傾向はさらに助長され、非常にクリーンなジャズになります。

**SAXOPHONE COLOSSUS** は、ダンパーなしでは、全般的に締まりのない音ですが、ダンパーありでは、ピアノのアタック感や、ベースの明瞭さは他の盤と同様の变化です。特筆すべきは、サキソフォンは肺活量が増えて息の吹き込み速度が速くなり、ドラムソロではドラムの皮の張りが強くなったような印象です。

**MJQ** は、ダンパーなしでは、ベースの膨らみが過度でぼやけ気味で、リズムを刻むピアノの左手も滲みがありますが、ダンパーありでは、ベースの解像度が上がり、音階がとりやすくなり、ピアノの左手も明瞭になりますし、ヴィブラフォンのアタックと余韻が明瞭になります。

以上、ジャズファンでなくとも違いは分かりましたし、日ごろオルガンのペダル領域の生音に親しんでいますので、ベースの音階などは一番の聴きどころでした。

#### 4. まとめ

手芸用のフェルトを切り抜いたアームダンパーを **ThoresTD124** の **RMG-212** にセットし、**JBL4350A** によるジャズ盤再生で効果を認めました。

以上